

4 住みよいくらしをつくる

(1) くらしと水

① 水道とわたしたちのくらし

水道が使われるようになる前の三島村の人びとは、井戸^{いど}水やわき水をくんで生活に使っていました。

昔は、くんだ水をタンゴやバケツに入れて、てんびんぼうでかっいで運んでいました。近くに井戸水やわき水のないところでは、遠くまで何回も水くみに行かなければなりませんでした。水くみは女の人の仕事でしたが、急な坂を登ったりおりたりして運ぶなど、大変な仕事でした。また、いそがしくなると子どもたちも手伝って水くみをしていました。

② 各島の様子

昭和36年12月に大里、昭和37年3月に竹島、昭和39年3月に硫黄島、昭和40年9月に片泊^{かひ}に簡易水道^{かんい}ができました。そのおかげで、今では、島のすべての家に水道が引かれ、いつでもきれいな水が使えるようになって、生活が大変便利になりました。

今の水道は、わき水や川の水などを揚水ポンプ^{ようすい}で配水タンク^{はいすい}にためて、消どくしてからきれいな水をそれぞれの家に送る仕組みになっています。竹島や硫黄島では、川が少



【配水タンク（片泊）】

ないために地下水をポンプでくみ上げて使っています。また、黒島では日暮川ひぐらしにダムをつくって、ためた水を使っています。水道の水は、わたしたちの家だけではなく、学校や出張所、ふれあいセンター、また、牛を飼ったり、作物をさいばいしたりするときなど、いろいろなところで利用されています。



ひぐらし
【日暮川のダム（片泊）】

③ 水のしまつ

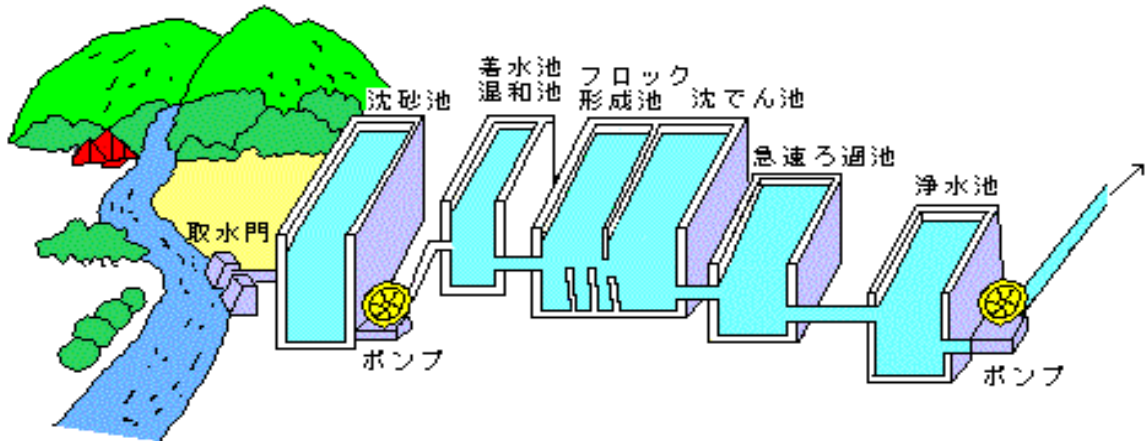
わたしたちの住む三島村では、下水処理しよりしせつがありません。そのため、定期的てきかくに各家庭や学校等にある浄化槽じょうかそう（※）にたまおていった汚泥の収しゅうしゅう集が行われています。島で1か所に集めていっぱいになると、鹿児島市内に持って行って処理しています。

鹿児島市などのたくさんの下水が流れる所には「下水処理場」があります。そこでは、水の中のよごれをしずめたり、薬を入れたりして、きれいにしていきます。きれいになった水は、最後に川や海に流すことができます。下水処理場では流される水のよごれ具合をしっかりと検けんさ査しています。

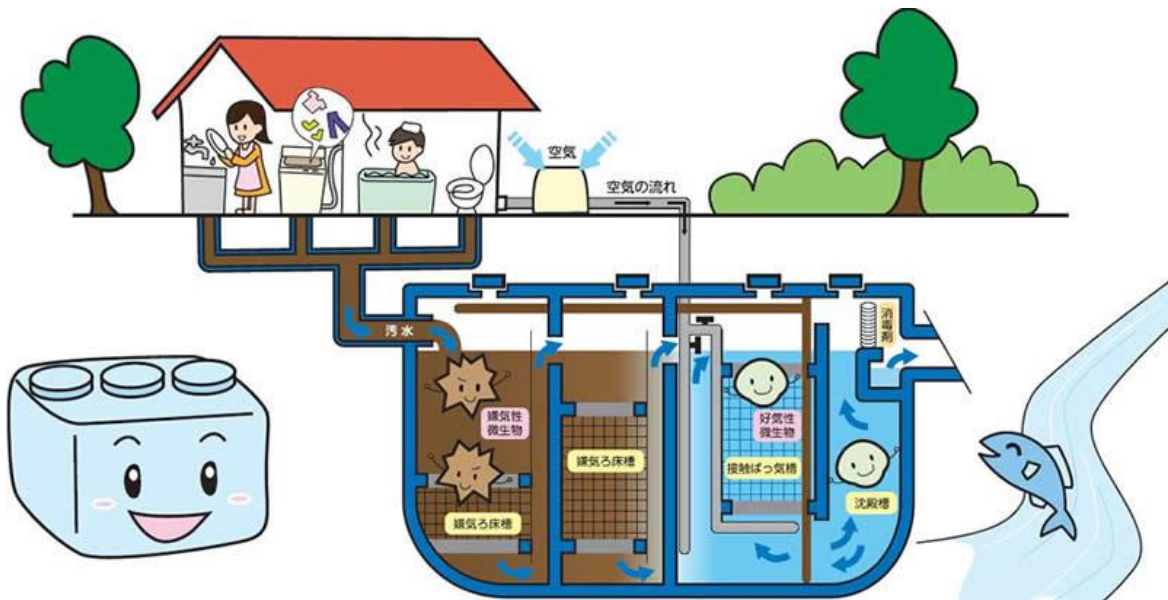
※ 浄化槽とは

トイレから出た汚水おすいや生活はい水の水をきれいに処理する装置そうちで、汚水を分解消どくして放流する仕組みがあります。

【鹿児島市の水道のしくみ】



【浄化槽のしくみ】



【鹿児島市の下水道のしくみ（処理場）】

